

第3回  
ひろしま「山の日」県民の集いの記録

---



と き／2004年6月5日（土）・6月6日（日）  
ところ／広島市森林公園・広島県緑化センター・立石山国有林

## はじめに

私たちは、このたび3回目のひろしま「山の日」県民の集いの行事を開催することができました。

広島県内のボランティアの団体や山に思いを寄せる人たちが、実行委員会をつくり、企画を練り、資金をあつめ、ロコミを中心に呼びかけました。今回は、会場が3ヶ所になるという大きな特長がありました。準備をすすめる中で、実に楽しいプログラムが出来たり、新たなメンバーや団体が加わったりと・・・自分たちの周りに人と人が不思議な力によってつながり、山に対する新しいネットワークが広がっていくことを自覚できました。

多くの人たちと一緒に、行事をやりとげ、その感動を共有できたことが、また次の集いにいい影響を及ぼすことと思います。

この行事にさまざまな形でご参加いただいたすべての方々や行政など関係機関の皆さまにこの場をかりて、心より感謝申し上げます。

## もくじ

|                    |    |
|--------------------|----|
| 事業のアウトライン .....    | 01 |
| 事業の実施状況 .....      | 02 |
| テーマトーク .....       | 06 |
| 各プログラムの記録 .....    | 08 |
| 実行委員、協力者、団体等 ..... | 17 |

## 事業のアウトライン

### 主 旨

身近な山森林や山とのかかわりのきっかけづくりを目的に、「山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ」をテーマに、実体感プログラムを多く取り入れた、ひろしま「山の日」県民の集いを広島市森林公園・広島県緑化センター・立石山国有林一帯において実施する。なお、今回の開催地の特長を十分活かした事業としていく。

### 日 時

2004年6月5日(土)・6日(日)

### 場 所

広島市森林公園  
広島県緑化センター  
立石山国有林

### テーマ

**山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ**

### 総参加者

約 2,400人

### 主 催

第3回ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会

### 後 援

(社)国土緑化推進機構、広島県、広島市、広島県教育委員会、広島市教育委員会、(財)広島市農林業振興センター、(社)広島県みどり推進機構、ひろしま緑づくりインフォメーションセンター、広島県山岳連盟、(社)日本山岳会広島支部、中国新聞社、NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島FM放送

### 協 賛

株式会社ウッドワン、中本造林株式会社、広島県協同組合連絡協議会、広島県農業協同組合中央会、中国木材株式会社、西条・山と水の環境機構、株式会社エルクチュール、学校法人広島コンピュータ専門学校、学校法人広島情報ビジネス専門学校、大和重工株式会社、株式会社広島バスセンター、株式会社にしき堂、コカ・コーラウエストジャパン株式会社広島中央営業所、株式会社総合広告社、広島ガス株式会社、株式会社デオデオ、大塚ペパレジ株式会社広島支店、大成建設株式会社広島支店、大成設備株式会社中国支店、中国富士化工建設株式会社、松原工業株式会社、広電建設株式会社、株式会社中電工広島支店、社団法人広島県森林協会、マツダ株式会社、有限会社はがくれ工業  
(順不同)

### 助 成

国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」助成事業

## 事業の実施状況

### ■概況

開催日の6月6日（日）は雨で明けたが、やがて陽が射し始め、爽やかな新緑の中で計画通りに事業を実施することができた。

参加者は、31団体・2400名。従来の1会場型と違って、広島市森林公園・広島県緑化センター・立石山国有林の3会場で開催された。

おりしも広島市は「広島市森林（もり）づくりプラン21」を策定したばかり。メインの広島市森林公園は開設15周年の節目の年であった。

### ■行事

「森林や山とのきっかけづくりを」と願うこの集いは、キャッチフレーズを「山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ」として、その精神に沿ったプログラムを多彩に展開した。

6 / 5

#### （1）登山フェスティバル（環境整備登山）

広島県山岳連盟事業。伊藤利彦実行委員長の挨拶、5月20日エベレストに登頂後遭難死した大田祥子さん（岳連顧問ドクター）への黙祷、無線通信の確認ののち環境整備登山をおこなった。

A、Bコースに分かれて登山道の整備清掃をしながら藤ヶ丸山～呉娑々宇山を巡るのがねらい。途中両コースのメンバーが山中で出会い、ハイタッチや挨拶を掛け合いつつクロスした。



#### （2）前夜祭

森林公園の奥にある林業体験広場に50名が集まってキャンプファイアを囲んだ。

それに先だって三原宏事務局長による森林公園ガイド、前垣壽男副実行委員長による「山の日について」のミニトークがおこなわれた。歌や踊りの交流を終えてテントに戻るころ、山の間からは広島市のネオンが、頭上には北斗七星などの星座がくっきりと確かめられた。



## (3) オープニングセレモニー

10時、芝生広場で平見久子アナウンサーの司会のもとはいよいよ開幕となる。

まず伊藤実行委員長により「21世紀は環境の世紀。森林とのふれあい、森林と人との関わりについて考え、山への思いを新たにしていきたい」と開会宣言がなされた。



伊藤  
実行  
委員長  
開会を宣言する、



木原康男広島市農林業振興センター理事長は、「古来、日本人は里山に代表されるように山の手入れをしながら豊かに過ごしてきた。現在も多様なボランティアの活躍により、次の時代の人材を育ててもらっている。これは大切なことだ」と歓迎の挨拶を述べた。

次いで、司会者が秋葉忠利広島市長メッセージを代読。「被爆当時、広島は75年間草木も生えないと言われてきた。だから人々は草木の芽生えにわが命を重ねてきた。私たちは、自然の生態系の一員として、豊かな森林を育ていく義務を負っている」と強調した。

テーマトークは、鍋島一仁広島市レクリエーション協会会長による「森はみんなのものだ」。

「これからは自立・共生といった生き方が求められる」とソフトに語りかけ、「自然に人に感謝の表現を表そう」とみんなに呼びかけ、右手を上げて「ブラボー」を連呼した。

最後は恒例の東広島山の会の18名が「故郷ひろしまの山」を会場の参加者とともに合唱した。香川県から駆けつけた作詞の大岡義明さん、作曲の渡部公子さんの顔も見えた。



## (4) 各プログラム

今回も多くのボランティア団体が、何度もプログラムの打合せを重ねてこの日にそなえた。

交通アクセスでは、バスを広島駅や路線バスの停留所から森林公園へとつなぎ、3会場間も緻密なダイヤを組んでバス4台を走らせた。

告知方法では、県・市の広報紙、民間ラジオによる呼びかけのほかに、催事案内をバスの車内に吊り下げたり、家庭に新聞折込み広告で広く知らせたりした。

## ① 広島市森林公園会場

## ・登山フェスティバル

初心者のための登山教室A、Bコース

ジュニア体験クライミング

登山相談コーナー

## ・みんなで作ろう昆虫の里山

## ・自然観察教室

## ・間伐材でベンチをつくろう

## ・森のネイチャーゲーム

## ・森のクラフト教室

## ・山の恵みを使ったフォトスタンド作り&amp;丸太切り競争

## ・草笛講習会

## ・紙ヒコーキを飛ばそう

## ・森のバイオマスを体験しよう



- ・講演「森のバイオマスで資源循環型のまちづくりを」
- ・森のピザづくり
- ・そば打ちの実演・販売・そば打ち体験
- ・ダッチオープン料理教室
- ・野菜市

## ② 広島県緑化センター会場

- ・「さくらの森」の下刈り作業とやまざくら30本植樹
- ・親子木工教室
- ・親子で楽しむ丸太切り
- ・森の宇宙教室
- ・竹とんぼづくり

## ③ 立石山国有林会場

- ・「ひのきの森」の手入れ

## (5) パンフルート演奏

芝生広場ステージでは、11時から岩田英憲さんのパンフルート演奏がおこなわれた。日本で最初のパンフルート奏者でおなじみの方だ。「新日本紀行テーマ曲」「野の花は風と歌う」「冬のソナタ」「アメージンググレース」など8曲を演奏。パンフルートの透き通った音色が、藤原由紀さんのエレクトーンとともに、風に乗って会場いっぱいに響き渡った。



## (6) 神楽上演

昼食後の12時30分からは、同じ芝生広場ステージで、加計町堀神楽団の勇壮な神楽が上演された。太鼓にあわせて5匹の大蛇がステージ狭しとからみあうと迫力満点となり、観客から拍手が起こっていた。

## (7) 山の防火訓練

プログラムの最後を飾るのは、ヘリコプターによる防火訓練。14時30分、司会者の案内で芝生広場の東端に観客が移動すると、鷹ノ条山中腹で発煙筒の煙がもうもうと上がり始めた。

近くの管理センターそばでは、消防車7台がサイレンを一斉に鳴らし、30名の訓練団員がホースを延ばして山へ駆け上がる。

通報により、広島西飛行場から5分で飛来してきた広島市消防航空隊のヘリコプターが、ホバリングしながら、怪我人を吊り上げ救助するシーンを見せた。このヘリは5月26日に尾道で、パラグライダーが高圧線にひっかかり、宙づりになった女性を救助している。観客の頭上を低空飛行し飛び去るヘリに、惜しめない拍手と歓声が贈られた。



## (8) 閉会式

中越信和さん（広島大学総合科学部教授）から講評があった。「立石山で70名の広大生や一般のボランティアの方と山の手入れをした。私もゴミを集めたがその多さに驚いた。世界遺産に登録されるような日本になるには、まず自然を汚すことから脱却しなくては」と呼びかけた。

そのあと、次回開催地が広島県立中央森林公園（広島空港に隣接）に決定と発表され、「山の日」フラッグが、瀬川千代子副実行委員長から小松光二郎広島県自然環境保全室長に手渡された。

最後に、前垣副実行委員長が「この10月17日に県の植樹祭が東広島市・竜王山で開かれる。

『第4回『山の日』県民の集い』の前哨戦としてまずここへ積極的な参加をお願いしたい」と閉会の挨拶。滞りなくすべての行事が終了した。

（記 国枝忠幹 日本山岳会広島支部）



人エボードを登る小学生



ヘリコプターも出動しての防火訓練



丸太切りも次第に上手になった



加計町堀神楽団による  
勇壮な舞



人気が集まったベンチづくり



趣向を凝らした各コーナー



バイオマスに興味津々



フラッグが次回の開催  
地に渡された



ひのきの森も時間とともに  
明るい森になった



閉会式を終えて



# テーマトーク

## テーマトーク

### 「森はみんなのものだ」

話 鍋島一仁さん

(広島市レクリエーション協会会長)



昨日、江田島で野外活動をしました。暑くて暑くて。今朝のようなお湿りのある方が自然にとっては良い環境と言えます。それに幻想的ですよね。緑の木々を見ていただけますか。水分を含んでキラキラ輝いているでしょう。

春は花を咲かせ、夏は太陽の暑さをしのぎ、秋は紅葉となり、冬は雪に耐えます。自然は耐えたり遊んだりするから、いつもイキイキしているのでしょう。

(ここで手ぶりを加えて「ふるさと」を歌う)

今日は、ぜひ自然の中に溶け込んでもらいたいと思います。人間だってキラキラしてきます。ここにお集まりの方は、すでにキラキラ輝いておられますけれど。その一つは、やりたいことをやっているからではないでしょうか。

そして二つは、打てば響く人を持っている。三つ目は、やった後に拍手が来ている。こういう人が輝いているのです。

さて、私たちは、この自然の中で本当の人間に帰るのではないのでしょうか。それは、五つの感性と一つの心、つまり『5感1意』により甦ると思っています。しかし、現代は残念なことにそれらが摩滅している気がしています。

眼で見る、耳で聞く、鼻でかぐ、口で確かめる、手で触れる。そして、志に向け頑張る。皆さんは如何ですか。

チョットとテストです。今から30秒間眼をつむっていただきましょう。なんの音が聞こえてくるか指を折って数えてみてください。

(結果を挙手で答えてもらったところ、一番多く聞きわけた方は8種類の音だった)

私たちは騒音の社会に慣れてしています。だから聴覚が退化しているのでしょうか。犬なら、この会場では20種類くらいの音が聞こえていると言われます。

みなさん、時には自然に触れて感じていただき『5感1意』を取り戻してみてください。

感性をイキイキさせておくことは命を輝かすことですよ。

さて、テーマに入ります。昭和35年ごろですが、私の祖父さんの時代は技術の無い時代でした。ノコギリで木を倒し、鎌で山草を刈り、田圃を鋤で耕していました。その時代は、近所隣皆が助けあっていました。不便だが豊かな時代で、依存しながらも共生していた時代でした。

昭和50年から55年の頃は親父の時代です。技術の進歩に支えられ、高度経済成長により物が増えて豊かになりました。

自立型の強い技術の世界は、一方では孤立化が進んできました。結果、人間が閉じこもりだしたのです。今日の日本には現在80万人～100万人の人が閉じこもっていると言われます。学校へ行かない不登校児が13万人もいるのです。今は便利ではあるが豊かな社会ではないのです。自立していながら孤立している時代です。

では、私たちはこれからどういう社会をつくっていくべきでしょうか。

私なら、親父の時代の自立をベースに、もう一度祖父さんの時代の、お互いが助けあう共生している状態を取り戻したいと思っています。便利で、真の豊かな時代です。

こうした「山の日」がきっかけになると思います。自分のことは自分でという自立と、自然の恵みはみんなのものであると意識して、協力しあっていく共生にパラダイムシフトしたいのです。山は地球のものです。地球の財産です。地球のもの



という意識を皆んなで守っていきましょう。私たちは自然界に対して、地球温暖化、災害、水、貴重な生物等、沢山の課題をかかえています。山も森も、私たちの命と暮らしを守るかけがえのない、皆んなのものです。

最後に、この森に感謝を表わすために拍手を贈りましょう。自然も人も拍手をもらえば元気が出てきます。

カンヌ映画祭へ行ったキムタクも、大きな拍手と「ブラボー」の声で迎えられたと言っていました。私達も山と仲間に、素直にこれが表現できるようでありがたいですね。



（ここでみんなと右手を挙げて何度も「ブラボー」の連呼をしながらテーマトークは終了）

（記 国枝忠幹 日本山岳会広島支部）

## 各プログラムの記録

### 登山フェスティバル

- 参加人数 環境登山 50人  
交流会 73人  
ハイキング 60人  
クライミング 20人

#### ●プログラム状況

広島県山岳連盟は、「山の日」の協賛行事として第40回広島県登山フェスティバルを行った。前日は、環境整備登山として呉婆々宇山の登山道のゴミ拾いをし、夕刻より実行委員も交えて交流親睦会は、山の日を発案者の前垣氏による原体験を交えたトークから始まりキャンプファイアーを囲み歌って踊って楽しく過ごした。

6日は、A.Bコースに分かれて呉婆々宇山へハイキングをし途中簡単な講習を行った。また、体験クライミングや登山者の相談にも当たった。



記録者：広島県山岳連盟 高田晃範

### 自然観察教室

- 参加人数 35人

#### ●プログラム状況

過去2回の「山の日」でも自然観察教室を開催してきた広島自然観察会。リーダーを務める自然観察指導員は多士済々で、これまでもオリジナリティに富んだプログラムを提供してきました。

今回は公園の中なので、植物はほとんど植栽です。みんなどこかで見たことのあるものばかり。でも、そんなものほどよく観察してみると新たな発見があるものです。当日の参加者のみなさんもリーダーの軽妙なトークとともに、身近な自然の不思議を楽しんでいたようです。



記録者：広島自然観察会 山根浩二

## 間伐材でベンチをつくろう

●参加者 50組

### ●プログラム状況

芝生広場テント受付後、シャトルバスにて林業体験広場へ案内誘導。

杉の間伐材をツーバイフォーに製材したキット、組み立て用工具、クギ類を手渡し、部員の指導者のもと、見本展示を見ながら製作。

親子、同僚、個人と参加者もバラエティに富んでいたが真剣に目を輝かせて1時間程度で完成させ、みなさん興奮気味であった。

一人掛け用のベンチで自家用車に積載可能としたため、第2駐車場まで運搬し、持ち帰り願った。

キット準備の関係から50組先着順としたが、締め切り後も申し込みが多数あり、次回の課題とした。



記録者：もりメイト倶楽部 Hiroshima 小野 寛

## 森のクラフト教室

●参加人数 43人

### ●プログラム状況

森の恵みである間伐材や除伐材そして松ぼっくりどんぐりなどを用いて森の工作を楽しんで貰いました。テーブルに並んだ、「ふくろうのペンダント」、「洒落た小物飾り」、「ドラミングするアカゲラ」、「クラシックカー」等の見本を見て子供たちは一生懸命取り組みました。

この教室では、単に物を作るだけでなく、クラフト作成で使うノコ、キリ、切出しナイフの使い方の基本も学んで戴きました。木目の綺麗なヨウブ、香り高いヒノキのワッパなど「この木何の木？」の質問も飛び出した楽しい一時でした。



記録者：広島県森林インストラクター連絡協議会  
大西 弘



## 山の恵みを使ったフォトスタンド作り&丸太切り競争

●参加人数 200人

### ●プログラム状況

中国電力のブースでは間伐材を利用したフォトスタンド作りと丸太切り競争を行いました。間伐材を利用したフォトスタンド作りでは、参加者はドングリなどの木の实を使って飾り付けを行い、個性溢れる作品を作りました。丸太切り競争では、15秒という名人の記録を目指して競い合いました。参加者からは「初めて丸太を切った」「思ったより難しい」「お父さんはやっぱり上手だ」という声が聞かれ、青空の下で爽やかな汗を流しました。



記録者：中国電力（株）環境用地部 牧野貴史

## 草笛講習会

●参加人数 150人

### ●プログラム状況

『広島県草笛愛好会』が発足して15年になりました。発足の目的は、1枚の葉っぱに息を吹きかけて哀愁をおびた草笛の音色を出して、音楽（童謡・唱歌など）演奏が出来る昔の子供の遊びを、今世紀で消滅することなく、末永く後世に継承するための、後継者の育成・指導活動にある。この目的達成のために、広島市森林公園・広島市植物公園で、毎年4月から11月までの期間、入園者対象に無料参加で資料を提供して、草笛講習会を開催し吹き方の指導活動をしています。

第3回ひろしま『山の日』県民の集い、会場・広島市森林公園で、約3時間強の草笛講習。指導時間内での参加、老若男女に加えて子供達約150人のうち、80%位は、音らしきものを出して楽しんでおられました。参加して下さった方々は、毎日少しずつ練習して自分の宝物にして下さい。



記録者：広島県草笛愛好会 畑野 薫



## 紙ヒコーキを飛ばそう

●参加者 143人

### ●プログラム状況

昨年の“もみの木森林公園”に続き、“広島市森林公園”にて、今回2度目の参加！あいにくの小雨・霧の中で、開会式が始まったのであります。

実行委員長のご挨拶の中で「今日は、山の日に相応しいお天気に恵まれ・・・」とお言葉！私は紙ヒコーキにての参加？！雨や霧では紙ヒコーキは飛ばない！おっと？今日は紙ヒコーキ大会ではなく“自然との共生”を体感し、皆さんが一日楽しく過ごす「山の日」でありました。



開会式～オープニングセレモニーが終る頃から小雨も上がり、空も少し明るく・・・。

紙ヒコーキ教室も忙しくなり、子供達の声も一段と大きく「早く教えてえ～！・どうするの～？○・＊・△・□・？…！」いつもの賑やかな教室の様子であります。



さあ～！出来た～！父さん見て～！飛べ！！行け～！「飛んだ～！もっと～！あれ～？！ぼくのヒコーキが木に・・・！」いつまでも走り回る子供たちが・・・！参加者の皆さんありがとうございました。

また実行委員会の皆様、お疲れさまでした・・・。

記録者：広島紙ヒコーキを飛ばそう会 中野 侃

## 森のバイオマスを体験しよう

●参加者 延べ80人

### ●プログラム状況

間伐材などを利用して作られた様々なウッドペレット（木質バイオマス燃料）の展示、それを燃料にしたペレットストーブもあわせて展示した。また、家庭から出た残飯や家畜の糞尿を利用したバイオガス発生装置も展示し、実際にさまざまなバイオマスを資源として利用できることを参加者の皆さんに見て頂くことができた。また、ペレットを利用したクラフトも行い、子供から大人まで幅広く普及啓発活動を行なうことができた。



記録者：特定非営利活動法人 森のバイオマス研究会  
事務局 徳岡真紀

## 森のピザづくり

●参加者 177人

### ●プログラム状況

森でピザを焼く？そう、アルミ箔を貼ったブロックの窯で木炭を使って焼くと遠赤外線効果抜群、美味しいピザができるのです。

当日は、ボールに600gの強力粉を入れ、一度に6枚分（25cm程度）のピザ生地を作りました。森の男達が渾身の力で練り上げたピザ生地は最高（イーストの発酵待ちでちょっとお待たせしましたが・・・）。それに参加者が新鮮野菜とベーコン、チーズ、たっぷりのピザソースで思い思いにトッピングし、窯に入れて15分間で一丁上がり！それはそれは美味しいピザを味わっていただきました。

この日に用意した12kgの強力粉は13時には完売。20杯のボールを練った森の男もさすがに疲労困憊、夜は奥さんに肩を練って？（揉んで）もらったそうです。

お疲れさん！ありがとうございました。



記録者：フォレストクラブ森守 松浦 毅

## かまどんオープンセット・羽釜セット実演

●参加者 約200人

### ●プログラム状況

会場内において、自社製品「かまどんオープンセット・羽釜セット」を使用してポップコーン・パン・ご飯を作り、皆様に試食していただきました。

参加31団体（2,400名）の皆様には配食出来ませんでしたが、200名前後の方々にご来場いただき、温かい料理を配り大変喜んでいただきました。又、「かまどん」商品説明なども合わせて行い商品PRの場としても活用できた事を喜んでいきます。



記録者：大和重工株式会社 第二営業部 天間康浩

## そば・うどん打ちの実演・販売・そば打ち体験

- 参加者 そば打ち体験 16組  
手打ちそばの販売 161食分

### ●プログラム状況

里山あーと村では、様々な活動を自主的に行っており、今回は「そばの会」の初の出店でした。初めてのそば打ち体験に四苦八苦しながらも、約1時間かかって打ち上げ、その場ですぐにゆでて、家族みんなでほうばっていました。また、そば打ちの実演を真近でみて目を丸くする子供たちや、そばについて熱心に質問する方々など、たくさんの笑顔に出会うことができました。今回をきっかけに、少しでもそば打ちや里山あーと村に関心を持っていただけたら幸いです。



記録者 安芸区農林課 大坂

## 野菜市

- 参加者 多数

### ●プログラム状況

馬木生活研究グループは、減農薬野菜を主として、皆様お馴染みのパセリのふりかけ・ドライパセリまた、お菓子類では、工夫をこらしたマドレーヌ・ニッキかん等を販売しました。

特に丹精こめ育てた野菜類、胡瓜、人参、キャベツ等は、その日の早朝収穫し新鮮な物を食卓にという事を願って私達は日々奮闘しております。“地産地消”、広島県内産を中心にした野菜・果物などでこれからも、「山の日」県民の集いに参加出来るよう努力していきたいと思ひます。



記録者：馬木生活研究グループ代表 山本雅子



## 広島県緑化センター会場での行事

会場のひとつ、広島県緑化センターでは、下記のようなプログラムが行なわれ、山について親しみ、楽しみ、学んだ。

### 【主旨プログラム】

- ・ さくらの森の下刈り作業とやまざくら 30 本植樹
- ・ 親子木工教室
- ・ 親子で楽しむ丸太切り
- ・ 森の宇宙教室
- ・ 竹とんぼづくり

### 【オカリナ演奏】

緑化センター会場では、10 時から佐々木八重さんのオカリナ演奏が行なわれた。

佐々木さんは、昨年、世界各国で同時開催される「音楽の祭日」の尾道会場でオカリナの演奏をされている。

曲目は、「夏の思い出」「緑のそよ風」など 7 曲、緑滴る森の中に爽やかな音色が吸い込まれていった。その音色はひときわ心に響くものがあり、参加者もうっとりと聴いていた。



記録者：ひろしま緑づくりインフォメーションセンター  
瀬川千代子

## さくらの森の下刈り作業とやまざくら 30 本植樹

●参加者 57 人

### ●プログラム状況

8 時 30 分頃よりスタッフ等関係者は予定通り集合して来たが、雨が止まず本部では山桜の植樹だけ行おうかなど検討していたが、9 時 40 分頃より雨が止み予定通り今日の行事を行うことになりました。

開会式終了後、人と樹の会・愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会・グリーンサポート連絡会のメンバーと雨にもめげず当日参加の 6 人を合わせて、57 人の参加となりました。4 班編成を組み一班は山桜の植樹・二班は人と樹の会関係者・三班は再生紙で名刺を作る会関係者・四班はグリーンサポート連絡会関係者で下刈り作業、各々の作業会場へ案内し作業開始。

山桜の植樹には家族で参加いただいた人はお孫さんをホローしながら和やかに植樹し、鹿の食害を防ぐヘキサチューブをかぶせていく作業に挑戦頂き何年か後にさくらが咲くようになったら是非見に来たいと話しておられました。二班・三班・四班も平素の実力を発揮して下刈りを行って頂き 11 時 50 分頃すばらしい成果を上げて終了しました。



記録者：広島県グリーンサポート連絡会  
廣瀬 健

## 親子で楽しむ丸太切り

●参加者 31人

### ●プログラム状況

グリーンサポート連絡会のメンバーで、丸太切りの準備を行い10時30分開始すぐ西区から参加の夏山さん親子をトップに親子で丸太切に挑戦して頂いた。

子供たちは初めて鋸を使う人もあり中々思うようには切れなかったが、スタッフの指導もありだんだん慣れるに従い上手く切れるようになった。2回目に挑戦した女の子はスムーズに切れるようになり、父親もびっくりしておられる光景も。31人の参加でしたが切った木でコースターにすとか、ヒノキ風呂感覚を味わってみたいと長めに切って持ち帰られる等一日中楽しんで頂けた。



記録者：広島県グリーンサポート連絡会  
廣瀬 健

## 森の宇宙教室

●参加者 33人（スタッフ3名を含む）

### ●プログラム状況

「森の宇宙教室」は森で宇宙を体験する、宇宙から森を体感する、森の仲間に宇宙教育を広げることをテーマにした地域教育活動である。

森（広島県緑化センター）で遊ぶ30名の老若男女がペットボトルを使ったロケットづくりと打上を楽しみ、垂直に4.5m程度打ちあがったロケットを見上げ、参加者の心は宇宙を体験した。

また、今回の活動をきっかけにして、このロケット教室は向原町の森林ボランティアグループの新たな地域教育活動のひとつに加えられた。



記録者：NPO 教育環境コーディネーター事業  
一瀬泰啓

## ひのきの森の手入れ

●参加者 102人

### ●プログラム状況

立石山国有林において、広島大学森林と人間講座の学生を中心に7団体102名がひのきの森の除伐作業を行いました。スタッフを悩ました朝からの雨も作業が始まる頃には上がり、予定どおり9班に分かれて約2時間作業を実行しました。

各班毎に、広島県森林環境づくり支援センター及び広島森林管理署の職員が、指導にあたりましたが、広大生をはじめ参加者は慣れない山仕事に最初はおっかなびっくりの様子でしたが、すぐに慣れ気持ちの良い汗を流しました。また、林内に投げ捨てられた空き缶等のごみも全員で回収しました。

作業が終わり、真っ暗だった森が明るく綺麗になったのを見て、参加者一同山作りや自然の大切さを改めて実感しました。



記録者：広島森林管理署 福本真也

## 親子の木工教室

●参加者 10人

### ●プログラム状況

親子で木と触れあい、木に親しんでもらうことを目的に木工教室を開催しました。開催前の雨天の影響で参加人数は10人と少なかったですが、その分、広島県林業研究グループ連絡協議会の安田さん、多田さんを中心に丁寧な指導をしていただきました。最初はおっかなびっくりな手つきで金づちを握っていましたが、次第に慣れてお父さん・お母さんもびっくりするほどの作品をつくらせていました。



記録者：広島県森林環境づくり支援センター  
川本政和



## 実行委員・協力者・団体等

### 実行委員会

#### ■アドバイザー・相談役

中越信和 広島大学総合科学部・大学院国際協力研究科 教授  
櫻井充弘 広島県森林保全室長  
梅原 努 (財) 広島県緑と森の森林公社

#### ■実行委員

##### ●実行委員長

伊藤利彦 (株) 広島バスセンター 代表取締役

##### ●副実行委員長

瀬川千代子 ひろしま緑づくりインフォメーションセンター 代表  
種村重明 広島県山岳連盟 会長  
前垣壽男 西条・山と水の環境機構 理事

##### ●直前委員長

森本竹一 (財) もみのき森林公園 前理事長

#### ●委 員

荒谷元次郎 (社) 広島県みどり推進機構 常務理事  
石丸栄満 ひろしま人と樹の会  
梅田 斉 (財) もみのき森林公園 支配人  
畠崎辰登 西条・山と水の環境機構  
江川和禎 広島県グリーンサポート連絡会  
岡村信秀 広島県協同組合連絡協議会 代表幹事  
岡谷良信 広島県山岳連盟普及部  
小野 實 もりメイト倶楽部 Hiroshima  
兼森志郎 広島県山岳連盟  
国枝忠幹 (社) 日本山岳会広島支部  
小林愛子 広島県生活協同組合連合会  
佐竹信夫 あーと村運営協議会  
佐々木弘磨 (株) パワーズ広島店  
佐々木桂一 生協ひろしま 参与  
城市隆利 広島県森林インストラクター連絡協議会、オイスカ広島支局  
新山まゆみ 広島市まちづくり市民交流プラザ  
高田晃範 広島県山岳連盟普及部  
戸田均史 広島市農林水産部 部長  
中島義昭 さるかに共和国草刈り十字軍  
中村隆行 広島バイオマス利活用推進 NPO ネットワーク 事務局長  
西林洋二 幻の名酒を飲む会  
野島信隆 広島県山岳連盟普及部  
樋口達哉 オイスカ広島支局  
広瀬 健 広島県グリーンサポート連絡会  
福本信也 広島森林管理署 業務課長  
山田雅昭 広島県山岳連盟 理事長  
六重部篤志 広島自然観察会

##### ●事務局長

三原 宏 もりメイト倶楽部 Hiroshima (50音順)

### 協力者・団体等

●登山フェスティバル／広島県山岳会連盟  
●パンフルート演奏／岩田英憲  
●神楽上演／加計町堀神楽団  
●山の防火訓練／広島市消防局  
●みんなで作ろう昆虫の里山／市民参加の森づくり実行委員会  
●自然観察教室／広島自然観察会  
●間伐材でベンチをつくろう／もりメイト倶楽部 Hiroshima  
●森のネイチャーゲーム／広島県ネイチャーゲーム協会  
●森のクラフト教室／広島県森林インストラクター連絡協議会  
●山の恵みを使ったフォトスタンド作り&丸太切り競争／中国電力環境用地部  
●草笛講習会／広島県草笛愛好会  
●紙ヒコーキを飛ばそう／広島紙ヒコーキを飛ばそう会  
●森のバイオマスを体験しよう／ひろしま NPO バイオマス推進ねっと  
●森のピザづくり／フォレストくらぶ森守  
●そば・うどん打ちの実演・販売・そば打ち体験／里山あーと村 村営協議会 (そばの会)  
●野菜市／生協ひろしま  
●さくらの森の下刈り作業とやまざくら30本植樹／ひろしま人と樹の会、愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会、広島県グリーンサポート連絡会  
●親子木工教室／広島県林業研究グループ連絡協議会  
●親子で楽しむ丸太切り／広島県グリーンサポート連絡会  
●森の宇宙教室／NPO 教育環境コーディネート事業  
●竹とんぼづくり／ひろしま人と樹の会  
●ひのきの森の手入れ／広島森林管理署、広島県森林環境づくり支援センター、西条・山と水の環境機構、広島大学総合科学中越研究室、(社) 日本山岳会 広島支部、ナイスシックスティークラブ  
●オープン・羽釜セット料理教室／大和重工株式会社  
●「故郷ひろしまの山」歌唱指導／東広島山の会  
●司会・進行／平見久子  
●公式記録／国枝忠幹

今年も多くの団体及び関係の方々の協働(コラボレーション)により、事業を行うことができました。心より感謝申し上げます。

### 第3回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

発行日 2004年7月20日  
発行 第3回ひろしま「山の日」県民の集い  
実行委員会  
編集 実行委員会事務局  
事務局 〒730-0041  
広島県広島市中区小町2-28-703  
株式会社富士パブリックス内  
TEL (082) 248-3567  
FAX (082) 248-3586

第3回  
ひろしま「山の日」県民の集いの記録



山と人との調和をモチーフにデザイン開発。  
基本カラーはエコグリーン。  
デザインは木原実行さん。

「緑と水の森林基金」助成事業